



地名の由来にもなった勿来関跡【大正9（1920）年ごろ『平潟港・勿来古蹟・名勝写真帖』から引用】

町への昇格による地名の変更
大正時代、いわき地方ではそれまでの農業から鉱業への産業形態の変化や、漁業の振興などに伴う波及効果により人口が増えたことから、大正十一（一九二二）年八月に湯本町、大正十二（一九二二）年四月に江名町および植田町、大正

地名の中の「いわき」

地名には、地域の歴史を知るヒントが隠されています。市内各所の地名にまつわる由来などを紹介し「いわき」の歴史をひもときます。
十四（一九二五）年五月に勿来町が、村から町へ昇格しました。
このうち、植田町は鮫川村から、勿来町は窪田村からそれぞれ変更されたものでした。

鮫川村は、植田地区を中心とする村でした。明治二十二（一八八九）年の明治の大合併の際は、当時の植田村は、自らの村名を新しい村名に使うことを望んでいました。合併する他の村の反対により鮫川村となりました。その後、鉄道の駅が開設され、商業が盛んになるなど栄えたことから、町への昇格を契機に植田町となりました。

一方、窪田村は、窪田藩の城下町として以前から栄え、一帯の中心地でした。しかし、関の名称にちなんだ勿来駅の開設により、勿来の知名度が高まったことから町名として採用され「勿来」が初めて正式地名となりました。
（いわき地域学會 小宅幸一）

※いわき市内の昔の写真をお持ちで、提供いただける方は、ふるさと発信課（☎22・7503）までご連絡ください。

市民のひろば

魅力あふれるいわきの創生
～いわきの芸術・文化・スポーツ～

レポート②45

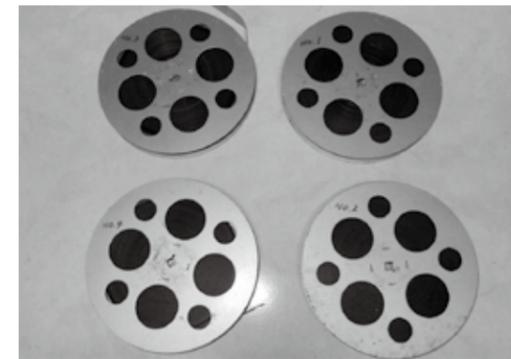
今月号は、昭和11年のいわきの映像を収めた16mmフィルムを現在の映像とともに編集し、上映会を開催している「いわきフィルムアーカイブ」の緑川健さんに、編集に取り組んだきっかけなどについてインタビューした内容をお伝えします。



緑川健さん（いわきフィルムアーカイブ）

Q フィルムの編集に取り組んだきっかけについて教えてください。
きっかけは東日本大震災です。同世代や若い世代の方が、いわきを盛り上げようと意識して活動する姿が頼もしく、何かできないかと思いました。そこで、以前から昔のいわきを映したフィルムがあることを知っていたので、活用を考えました。昔のいわきの映像を見ることで、当時の人々がどのように生きていたのかを振り返り、復興やこれからのいわきの発展について考えるきっかけになればと考え、編集に取り組み始めました。
フィルムには昭和十一年、戦前のいわきが映っています。現在、戦前のいわきの映像はほとんど残っていないので、とても貴重なフィルムで

す。フィルムの映像を分かりやすくするため、説明などを加えて現在の映像とともに編集しました。
Q 編集作業で大変だったことは何ですか。
フィルムには撮影日などの記録がなかったため、撮影された年代を特定するのが大変でした。映っている建物や人物、地名などを一つ一つ整理して、さまざまな資料と照らし合わせながら調べていきました。現地足を運び、フィルムの映像と風景を比較したこともあります。最終的には、年代だけでなく季節も特定することができました。
苦労はしましたが、調べていく中で、当時の生活や人々の息遣いを感じることができ、とても面白かったです。そして、改めてフィルムの貴重



戦前の松ヶ岡公園や勿来関、県内出身の著名人などが映っている16mmフィルム

重さや価値を知り、撮影した方のごさを感じました。
Q 上映会の反響はいかがですか。
二年前に初めて上映会を開催した際には、申し込みの定員を超えるほど、多くの方に参加していただき、大きな反響がありました。これに手応えを感じ、継続して上映会を開催しようと考えました。これまで開催した上映会も、毎回多くの方に参加していただきました。映像を楽しみながら関心を持って、いわきの将来について考えてもらえるよう、今後も地道に活動を続けていきたいです。
フィルムの上映会を、一月二十一日に「たいら学」の講義の一つとして、二月四日には暮らしの伝承郷で行いますので、興味がある方はぜひ参加してください。



多くの方が参加した四倉地区での上映会

市共に創る道づくり事業を実施

12月10日、田人町石住地内で同事業を実施し、地域住民の皆さんと市が協働で、市道における簡易な待避所整備を行いました。



車のすれ違いができるよう待避所整備の作業を行う地域住民の皆さんと清水市長

開催 市民美術展覧会

市立美術館 ☎25-1111

市民の皆さんなどから公募した作品を展示します。

- ▶とき ①書の部= 2月9日(金)~18日(日) ②絵画・彫塑の部= 2月23日(金)~3月4日(日) ③陶芸の部・写真の部= 3月9日(金)~18日(日)

▶時間 9時30分~17時（入場は16時30分まで）

▶休館日 毎週月曜日（2月12日(月)は開館）、2月13日(火)



部門ごとに作品を展示